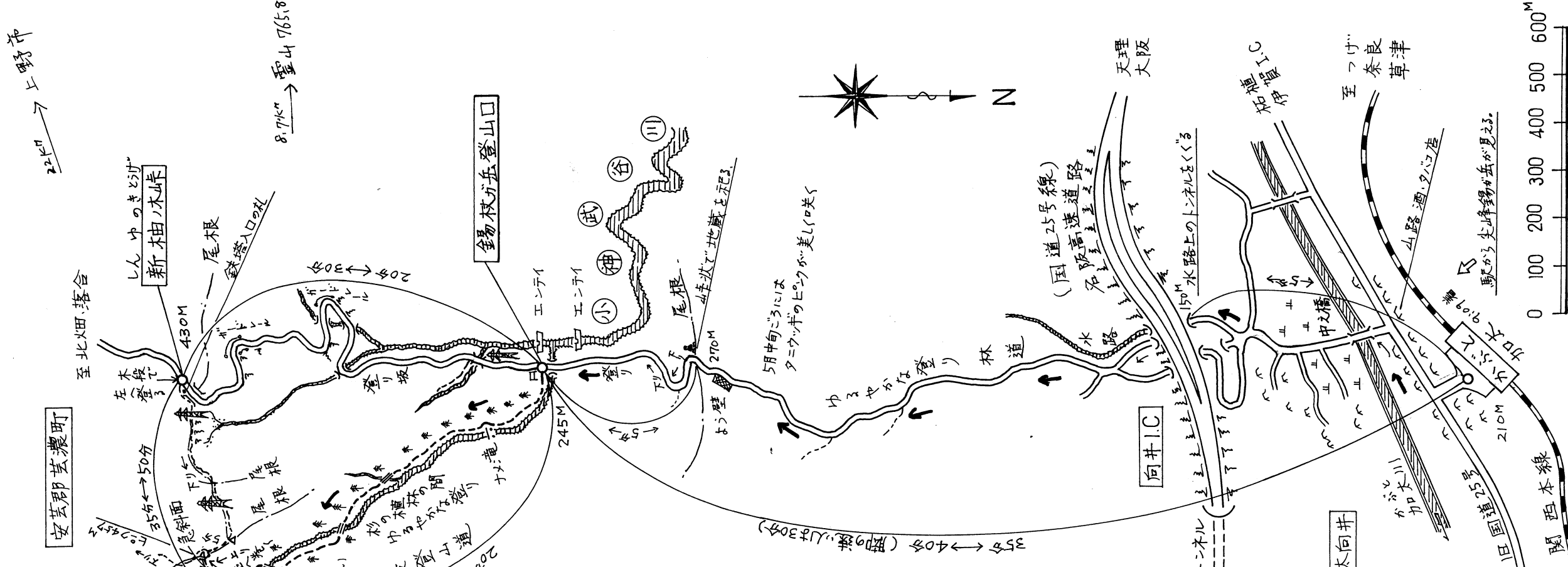


しやくじょう

錫杖ガ岳

22km → 上野市

8.7km → 霊山 765.8



頂上には立した花崗岩の岩峰で、展望の広大さに驚く。先ず自分の気に入った大石の上で休憩と昼食をゆつたりと。今迄登った見覚えのある鈴鹿南部の山々(三ツ山、高畑山、那須が原山、三国岳、油田岳)がリフレッシュよく見渡すことができる。振り返ると、766Mの霊山が西に大きく迫り、南は819Mの経ヶ山、高きそびえ、その中間は842Mの笠取山である。いつかはこの山にも登ってみたい欲望にかきまわされる。

昭和47年7月9日 鈴鹿南部縦走も皮切りに、鈴鹿峠やツゲから南部の山には何回も行ったが、亀山駅前から乗って、バスが関を過ぎ、鈴鹿峠に向かい始めると、左手に櫃ガ岳のように尖った山が見えてくる。じつと眺めていると、この山なみは、櫃ガ岳から西穂高岳に至る姿に相似し、まるで、穂高のミニチュアであるのが、気に入り、いつかあの山に登って見ようと思いつながり、10年以上過ぎてしまった。

250円を購入して見れば、登山道も有るようだし、676Mの標高なら行けると確信し、昭和59年1月29日にかぼとの駅に降りた。小雪が舞い、寒い朝ではあったが、尾根を歩けばと考へ、新木ノ峠まで林道を行き、切り開きの土手に登る踏跡をたどって、旧木ノ峠へ下る。積雪は5センチで、尾根筋を赤テープを目印に、峠から20分も登ると、雪も止んで、右正面に尖山、錫杖ガ岳が見えてきた。尾根から岩壁を見ながら、さらに岩場を右から左に巻いて急坂を登ること25分で、頂上に達した。頂上には赤い郵便受が掛けられており、20名ほどは岩峰に立ちどまった。その後春には何度か訪れたが、展望抜群、列車の便もよく、ひそやかなよい山である。

その後、谷田、三浦、奥村3人で、東の尾根を縦走し、尾根が切れたアングから下山すれば、お寺へ出て、関駅へ歩く。(福徳)

